

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4472100595		
法人名	医療法人 二豊会		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	大分県国東市国見町小熊毛2695番地1		
自己評価作成日	令和6年2月8日	評価結果市町村受理日	令和6年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和6年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者が心穏やかに生活できるように個人個人の思いを職員全員で共有し、支援するよう努めています。
 ・経営母体が病院であり、体調変化を相談しやすい環境で安心して過ごしていただいています。
 ・家庭的な環境のもとで、馴染みの言葉で楽しく会話ができる関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・母体が病院であり、体調変化時など相談しやすい環境であり安心感がある。
 ・理念に添って、真心、笑顔、安心、信頼を基本に利用者と家族的に過ごしている。
 ・静かな環境のもと、近くには神社や畑がありのどかな雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時にその日の勤務者が全員揃い、声に出して唱和、内容共有し日々実践しています。	理念はホール横に掲示され、職員は毎朝申し送り時に唱和して再確認し、共有・実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーに地区の区長さん、民生委員さん、老人クラブ会長さんをお願いしており施設の現状を共有していただいています。	運営推進会議のメンバーに地域の方もおり、自治会にも加入で日常的に交流している。区長が草刈りを手伝ってくれたり、近くの小学校から花の苗が届けられたりとの交流もある。回覧板を持って行き、会話する事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての発信はできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区区長・老人会会長・民生委員・市高齢者支援課・家族代表に事業所の現状報告等を行っています。行政への質問等に分かりやすく説明していただくなどご家族にとっても質問しやすい場となっています。	運営推進会議には市から2名の参加があり(出張所1名)、事業所の現状報告の説明や取り組みのあり方等、意見を頂きサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険係との連携を常に持ちアドバイス等を受けています。包括支援センターにも相談しやすい関係をもっている。2か月に1度の町ケアマネ会議では情報交換ができています。	市の介護保険係との連携を持ち困難事例の相談や対応も相談しやすい関係にある。情報を共有し協力関係を築きながら取り組んでいる。町のケアマネ会議に包括の参加もあって、協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいるものの離設による危険回避の為やむを得ず玄関に施錠をすることがあります。	身体拘束をしないケアの実践には職員の共通認識を図っている。不適切な言葉かけがある時は、職員同士で注意する事もある。研修もしており、さりげない声掛け等気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の研修会に参加し、職員全体で話し合い、共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修への参加を行っており、研修にて学んだ後、施設で勉強会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に本人、家族等へ説明を詳細に行っています。疑問等にはその場で説明しています。看取り等についてもその時の意向を伺うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は勿論のこと、電話等での要望、意見をいただき施設運営に反映させています。運営推進会議も意見を伺えるよい機会となっています。	家族には電話や面会時に意見を聞いたり、事務所から写真入りで様子を知らせている。出された意見や要望は話し合い、反映させている。何でも言ってもらえる雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、日頃のミーティングで意見を出し合い、職員の意見を反映させています。	月1回の職員会議で意見を出し合う。意見が出ればとりあえず行動し、その後、検討し合っている。職員ノートを利用し、職員意見をすいあげて活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態(労務関係・給与・福利厚生)は医療法人二豊会で管理されています。施設内では職員同士は急な勤務交代にも快く承諾するなど、お互い働きやすいように思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修への参加や外部研修への参加を促し、職員の資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内他事業所との交流をすることでアドバイス等を受けています。町ケアマネ会議では勉強会や事例検討会が行われサービスの質を向上させるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所のご相談を受けた時よりご家族から状況を詳しく伺い、対応できるよう心がけています。また、難しい言葉は使わず、ご家族やご本人が分かりやすい会話を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談を受け付けた時より、できる限りご家族が困っている事、不安なこと、要望等を聞き、信頼していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談の段階で在宅生活の継続が困難でご家族が困っていることが多く、まずはご本人、ご家族が安心できるような支援を行い、その上で過剰サービスにより持っている能力を損なわないよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として家庭的な雰囲気の中で過ごしていただけるよう、ゆっくりとしたペースの支援を心がけています。人生の先輩として敬意を持ちつつ、時には友人のように接することもあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りに努めています。面会の際はご本人の様子をお知らせしてから職員は席を外す等、心おきなくお話ができるよう心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しずつ外泊や外食など行ってきました。ドライブでは家まで行ったり、面会も友人が来てくれたりすることができています。	感染対策を考えながら徐々に友人が来てくれたり、家族の協力で馴染みの場所にも出かける様になってきた。関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態を把握し、日課の中で作品作りや会話、ゲーム等によりみんなと一緒に楽しく過ごせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は他施設へ転入する方がほとんどですが、退所後、スムーズに生活できるように家族や転入先の職員の方と連絡を取り合えるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	伺っても答えていただけないことも多いのですが、ご本人の言動等に気を付けて希望や意向をくみ取れるよう努めています。	日々の関わりの中で、会話や日頃の様子から組み取り把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。情報は職員間で共有し、支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報提供書等で在宅生活の状況や生活歴等で居宅のケアマネより情報提供を受け把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時の相談時に家族より現状を聞き取り、把握しています。また、居宅のケアマネより情報提供を受け現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、職員等でモニタリングし、担当者会議で話し合い、介護計画に反映しています。	本人、家族には日々の関わりの中思いや意見を聞き介護計画に活かされている。担当制であり、密に関わる事で情報も詳しくモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録やミーティングを中心に職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しにいかしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところ行えていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域性もあり利用できる地域資源が少なく、十分な支援が行えていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在6名が母体病院が主治医で3名が近隣の医療機関をかかりつけ医としています。家族と協力しながら受診の支援を行っています。	母体病院がかかりつけ医の方もいるが、別の医療機関を受診する方もいる。定期的に家族が行く場合が多い。職員が対応する事もある。人工透析の方もいる。適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態について母体病院の外来看護師と常に連携を取っています。施設職員が主治医と顔を合わせる機会も多くあり小さなことでも報告、相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報は予め準備しておき、入院の場合は情報を渡してスムーズに入院できるようにしています。他の病院関係者とも話がしやすい関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設入所を理解し、納得して入所される利用者はほとんどいらっしゃいませんが、ご本人、ご家族の希望を聞き取りながら事業所のできることをやっていき、施設での生活が困難になりつつある方にはご家族と相談しながら方針を決めています。	入居時に重度化について説明をし、情報提供もあり密に連携が取れるように支援に、取り組んでいる。看取りはしない。母体の病院から介護医療院と連携もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変により救急車依頼の場合は利用者の情報を救急隊員に渡せるよう準備をしています。また、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風など事前に予測できる場合は早めの避難を心がけています。職員全員が防災意識を持っており、地区の方からも遠慮なく助けを求めるよう声をかけてもらっていますが、夜間は不安を感じています。	防災対策においては停電の時の為に発電機が設置されており備蓄は4～5日分あり、避難は病院の予定である。夜間想定の実施訓練である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの理解度に合った声掛けを行い、その方の誇りやプライバシーに配慮した対応に努めています。	職員は常に利用者の気持ちを考えてさりげないケアを心がけ支援している。声掛け等、気付いた時にお互い注意するようにしている。一人ひとりの情報を皆で共有し、人権を損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散髪、着る物等の希望を聞き、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、ゲーム、作品作りなどを提案しますが、無理強いせず、本人の意思での参加、不参加を決めています。入浴も本人の意思を尊重し、翌日に対応するなどしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時に自分の好みの服を選んでもらっています。男性の髭w剃りは自身で行ってもらいますが、仕上げは職員が手伝い身だしなみが整うよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は行っていないが、後片付け等は手伝ってもらいます。また、季節や地域ならではのおやつを職員が手作りして提供することもあります。利用者の希望を聞いて栄養士に伝えたりしています。	食事は三食共、事務所で作っている。「パンが食べたい」などの要望に応じられている。すぐ横にある畑で採れた野菜を使用する事もある。行事食など楽しみに対応出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもとで献立を立ててもらい、提供しています。食事・水分摂取量の記録も確認し、共有しています。状況によって粥やキザミといった対応も行っています。水分摂取制限のある方の管理も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促し、自分でできない部分のみ介助を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツや尿取りパッドを使用している、ほとんど全員の方がトイレにて排泄を行っています。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導につなげている。日中はほぼ自立出来ている。夜間は2名に声掛け誘導で対応している。自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動状況、水分摂取量の管理などにより便秘の予防に努めています。排便チェック表を記録しており、場合によっては服薬等で便秘をしないよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴を支援しています、本人の拒否がある場合は翌日の対応をしています。	週2回が基本で1日3名対応入浴。本人拒否がある場合は曜日を変更し対応。個々に添った支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理に留意しています。居室で休憩したり、フロアで他の入所者の皆さんと過ごしたり、それぞれ自由に過ごしていただけるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬管理・服薬介助を行っています。また、症状の把握に努め、変化があった場合は主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けや洗濯物を職員と一緒に畳むなど得意な手伝いをさせていただいています。好きな方はコーヒーを楽しんだりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族とともに外出し、一緒に食事をする方もいます。家に入らなくてもいいから家に行ってみたいと言う方はドライブで一緒に行き、近くの畑を見たり庭にある木を見たりして懐かしんで頂いています。	感染症の対策をしながら散歩が徐々に出来るようになってきた。人数を少なくしドライブ支援する事もある。家族と外出し外食する機会も出来るようになってきた。外気にふれる機会を工夫し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が金銭管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙を書ける方はいらっしゃいませんが、電話のやり取りは支援しています。また、レクの時間に本人の住所、名前を書く練習を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽やテレビの音の大きさに注意しています。室温も適温になるよう職員が管理しています。トイレや浴室は大きな文字で分かりやすく示しています。	玄関の共有空間には家族や面会の方が座れるようにテーブルと椅子が置かれ、壁には作品が飾られ観葉植物があり居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースにはソファを設置、各居室に椅子を置き、お互いの部屋を行き来して会話をしたり、好きな場所でまとまって会話を楽しめる場所を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等、今まで使っていた物を持ち込んでもらっています。家族の写真等を飾っている方もいます。	明るい日差しが入る様に工夫され本人の使い慣れた物や写真など飾られ、本人が居心地良く過ごされるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりも付いており、安全に移動できるようになっています。できる範囲で掃除の手伝い等もお願いしています。		